今後のまちづくりに対するアイディア・提案（自由回答）

～ 町制施行に関する住民意識調査結果（その7）～

土地利用（宅地・工場造成）

【横越地区】
- 田畑を含め、ともかく緑を残す。
- 昔の風景を大切にする。
- 住宅団地の拡大をはかる。

【沢海地区】
- 横越地区は商業、住居地域として、沢海地区は阿賀野川を利用した総合観光地域として整備するなど、それぞれの地区で整備面を充実させていく。
- 村営住宅（特に所得の少ない人のためのもの）を建設してほしい。

【木津地区】
- 新潟市に吸収合併されることを考慮に入れ、新潟市のベッドタウンとして住宅地、企業用地を増やしていく。

【二本木地区】
- 市街化区域を拡大し、宅地を増やす。
- 現在の自然環境を保って都市開発整備をする。

【小杉地区】
- 住宅地を造成してほしい。
- 住・産業・自然のバランスのとれた美しい環境の保全に努めてほしい。

【藤山地区】
- 住宅地の開発よりも自然を残し、農業を続けられるようにすべきである。
- 田園風景を最優先に考え、大規模市民農園を造成すべきである。

交通機関（道路、鉄道、バス）

【横越地区】
- 交通機関の整備を望む。
- 村道の整備を進める。
- 鉄道の駅がほしい。

【沢海地区】
- 休日に路上駐車がふえるので、駐車場を増設してほしい。
- バスの本数を多くする。

【木津地区】
- ＪＲの駅を誘致する。
- バスの本数を増やしてほしい。

【二本木地区】
- 二本木と横越間の〝横木農道〟を早く開通してほしい。
- 二本木と横越間の自転車道をつくってほしい。

【小杉地区】
- 大規模農道に並木を植える。
- 公共交通機関の整備を望む。

産業（農業、商業、工業、観光）

【横越地区】
- 商店、スーパー等を誘致すべきである。
- 銀行を誘致すべきである。
- 青空市（フリーマーケット）を開催する。

【沢海地区】
- 大型店の誘致をする。
- 北方文化博物館に物産館を併置し、村の特産物販売所とする。

【木津地区】
- 温泉施設をつくってほしい。
- 買物に便利なよう、商店街を振興する。

【二本木地区】
- 国道４９号沿いに大きいスーパーをつくってほしい。
- これからの横越の発展のために、見る観光から加わる観光に切り替え、人間味と特徴のあるまちづくりを進めていく。

【小杉地区】
- 大型ショッピングセンターを誘致する。
- 特産物の開発をする。

【藤山地区】
- デパートを誘致してほしい。
- 米作りと観光を結び付け、経済力を伸ばす。

【駒込地区】
- スーパーを誘致してほしい。

川をきれいに「河川・海岸愛護月間」（6月1日～6月30日）

国、建設省では、河川の愛護思想を広く国民一般に周知徹底させ、河川環境を積極的に整備することによって河川を常に美しく安全に使用することを目的として、毎年七月に河川愛護運動を推進しております。

一方、県では、六月一日から六月三十日までを「河川・海岸愛護月間」に指定し、川や海を美しく保ち、楽しく水と親しむ運動を推進しています。大切な私たちの自然、川や海をきれいにするために、私たちひとりひとりが川や海にゴミを捨てたり、汚れた水を流したりしないことが一番大切です。

川や海は、みんなの憩いの場であり、水遊びや魚釣りなどの楽しい遊びの場でもあります。

また川は、私たちが毎日使っている水道の水や農業用水など、私たちの暮らしになくてはならない水をもたらす大切な資源です。しかし、その川も最近では、ビニールや産業廃棄物等により汚れが目立つようになってきています。

汚れたらきれいにしてあげる、それが私たちの役目です。美しく、自然のままでいつまでも。

皆さんの御協力をお願いします。

村史編さんだより ㉒

―横越村合併の経緯とその周辺（最終回）―

今月は明治三十四年（一九〇一年）の五カ村（横越・沢海・木津・二本木・小杉の各独立村）の最終的な合併についてお話しいたします。

この五カ村が合併して現在の横越村になるわけですが、明治三十四年（一九〇一年）の四月の時点では、どうやら五カ村が全部一つの村になるという話は出ていなかったようです。合併の話が持ち上がった当初、中蒲原郡役所からの試案では、横越村（横越㈱村と小杉村を合併）および木津村（沢海村、木津村、二本木村とを合併）の二ヵ村にまとめてはというものでした。しかし、その後横越、小杉の二村のみでは不都合なことが多いので、沢海村をも含めた三ヵ村合併という話になったのです。

この三カ村長が連名で中蒲原郡役所に提出した合併理由書（明治三十四年四月十日付）には、次のような理由が記述されています。

「（前略）水利交通の関係に付き横越、沢海、小杉の三ヶ村はいずれも一直線阿賀野川に沿うの地景にて、（中略）末端から末端迄の延長は約里余に亘るも毫も不便を感ずるの惧れなし」と冒頭で述べた上で、「其の民情に於ては、（中略）先年横越村高等小学校設置の際も、三ヶ村組合立に組織し、水利上に於ては水害予防組合区域に之有り、（中略）各村共農を以て本業とする土地柄に候得ば其の関係の如き毫も間然する處之無く候（後略）」とあります。

また、木津村は沢海村、二本木村と、二本木村は木津村、袋津村、茅城島村内の大字城所との合併を希望しましたが、結局前三ヵ村の合併に加わることになり、そして同年十月三十日、大横越村が誕生するのです。

県内ではまだ紛争中で、祝盃の一つもあげることができなかった町村もあった中で、横越村は「天長節の佳辰を卜し（中略）通琳寺に於て町村合同成立の式を挙行せり」と晴れやかに報じられました（同年十一月七日新潟新聞より抜粋）。